

平成29年度第10回霞ヶ浦自然観察会実施結果

「霞ヶ浦の冬の鳥たち ～湖と湿原の冬の風景」を実施しました。

開催日時：平成30年1月20日（土）午前9時00分～午後4時00分

開催場所：稲敷市浮島（和田公園および妙岐ノ鼻）

参加者：34名

今年度も毎年1月に行っている野鳥の観察会を雪入ふれあいの里公園所長の川崎慎二先生をお招きして実施しました。観察地には、稲敷市浮島にある和田公園と妙岐ノ鼻（浮島湿原）を選び、林の鳥、湖の鳥、湿原の鳥を一度に観察しようと企画しました。さて、どれだけの野鳥が観察できたのか、当日の様様をご報告します。

当日は開始直後に小雨がぱらつきましたが、ほとんど無風で、気温も下がらなかったため、観察に集中することができました。また曇り空は、太陽光の影響を受けにくく、野鳥本来の羽の色を観察できることを川崎先生に教えていただきました。

まず午前は和田公園の芝生や松林から観察をスタートしました。公園内では、夏は高原にいて、冬は低地に下りてくるビンズイやアカハラが見られました。また芝生の上ではツグミの姿が見られました。公園から湖岸に出ると、霞ヶ浦の湖上に浮かぶカモ類やオオバン、カイツブリの仲間などが現れました。カモ類ではヒドリガモの群れが目立ちました。また集団で移動しながら、時折一斉に水の中に潜るハジロカイツブリの姿は愛らしいものでした。そして人気者のカワセミがずっと同じ場所にくれたため、じっくり観察できました。工場の屋根の上で10羽を超えるアオサギが休んでいる姿も印象に残りました。

昼食・休憩をはさんで、午後は妙岐ノ鼻に移動し、最初に独立行政法人水資源機構の職員の方から、機構の事業内容と妙岐ノ鼻湿原の管理についてお話を伺いました。洪水や塩害から流域住民を守るため、近年では東日本大震災に伴う被害からの復旧の取り組み、また水位の管理や船の航行路を確保するための浚渫など、多岐にわたる事業内容や、妙岐ノ鼻湿原を保全するための生物相調査などの取り組みについて教えていただきました。

その後、引き続き、妙岐ノ鼻での野鳥観察を開始しました。周りには大きなカメラを構えた野鳥愛好家の姿が多く見られ、我々もどんな野鳥が観察できるかと期待が高まりました。駐車場から湿原内にある観察小屋まで歩いていく途中で、川崎先生が次々と猛禽類（タカの仲間）を見つけました。先生の示す方向に双眼鏡を向けると魚を捕まえたまま飛んでいるミサゴや、遠くの灌木で休んでいるチュウヒなどを次々と観察することができました。妙岐ノ鼻では6種類もの猛禽類（トビ、ノスリ、ミサゴ、オオタカ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ）が見られ、生態系の頂点に君臨する猛禽類を養うだけの多くの生き物が生息していること、それを支えるのがヨシ原を中心とした植物相の豊かさであることを実感しました。

観察した野鳥の一部しかご紹介できませんでしたが、今回の観察会では36種類もの野鳥を観察することができ、充実した内容の観察会となりました。参加されたみなさん、川崎先生、水資源機構の片岡様、沼尻様、パートナーのみなさま、本当にありがとうございました。

観察会の様子の一部を御案内します。



川崎先生から野鳥の観察の仕方を学びました。



ウグイスも見られました。



カワウの編隊飛行。



たくさんのカモが水面で休んでいました。



カワセミが水浴びをしていました。



ハイイロチュウヒ (川崎先生撮影)



妙岐ノ鼻の管理について説明を聞きました。



視線の先には多くの猛禽類がいました。